

函 館 新 聞

開発
技術
交流

食の安全テーマ

函館、十勝の研究成果報告

函館エリア・十勝エリア地域研究技術開発交流会が13日、函館ハーバービューホテル（函館市若松町14）で開かれた。写真。食の安全に関する基調講演をはじめ、文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業に取り組み両地区の研究成果が報告され、互いの事業推進に向けて意見を交わした。

「公定法を超える高感度の分子生態学的微生物モニタリング」、十勝エリア

函館地域産業振興財団（高野洋盛理事長）と十勝圏振興機構（有塚利宣理事長）の主催で、昨年帯広市で開催して以来2回目。「食品の安全性確保

平成19年度 函館エリア・十勝エリア地域研究技術開発交流会
食品の安全性確保のための新規な微生物検査法



保のための新規な微生物検査法」をテーマに掲げた交流会には約70人が参加した。
基調講演では、東京顕微鏡院常務理事で、食と環境の科学センター所長の伊藤武氏が講師を務め、食品衛生検査指針の内容、食品細菌に関する各種検査法の利点や問題点などを解説し、消費者の食の安全に対する関心が高まる中、法令順守の重要性を訴えた。
函館エリアは同財団研究開発部バイオテクノロジー科の大坪雅史氏が

アは道立畜産試験場基礎研究部遺伝子工学科の甲田洋子氏が開発事例を発表。それぞれが強みとする海産品と農畜産物について、互いの立場から意見交換も行われた。
（浜田孝輔）